

意見聴取内容 (市町、企業、経済団体、県民)

| 対象者 | 調査内容 |
|-------------------|--|
| 市町 (P2～P3) | <p>【実施時期】 平成 24 年 10 月 4 日～10 月 17 日</p> <p>【対象市町】 全市町（8 市 9 町）</p> <p>【実施方法】 訪問調査</p> |
| 企業 (P4～P11) | <p>【実施時期】 平成 24 年 8 月 20 日～</p> <p>【対象件数】 115 件（平成 24 年 10 月 22 日現在） （県内企業。県外本社で県内に事業所ある企業も含む）</p> <p>【実施方法】 訪問調査</p> |
| 経済団体 (P12～P13) | <p>【実施時期】 平成 24 年 7 月 24 日、10 月 5 日～10 月 17 日</p> <p>【対象団体】 5 団体（香川県商工会連合会、香川県商工会議所連合会、香川県中小企業団体中央会、一般社団法人香川経済同友会、香川県中小企業家同友会）</p> <p>【実施方法】 訪問及び文書による調査</p> |
| 県民 (P14～P15) | <p>【実施時期】 平成 24 年 7 月 4 日～</p> <p>【意見提案者】 11 人（平成 24 年 10 月 22 日現在）</p> <p>【実施方法】 県ホームページを活用して、意見・アイデアを募集</p> |

市 町

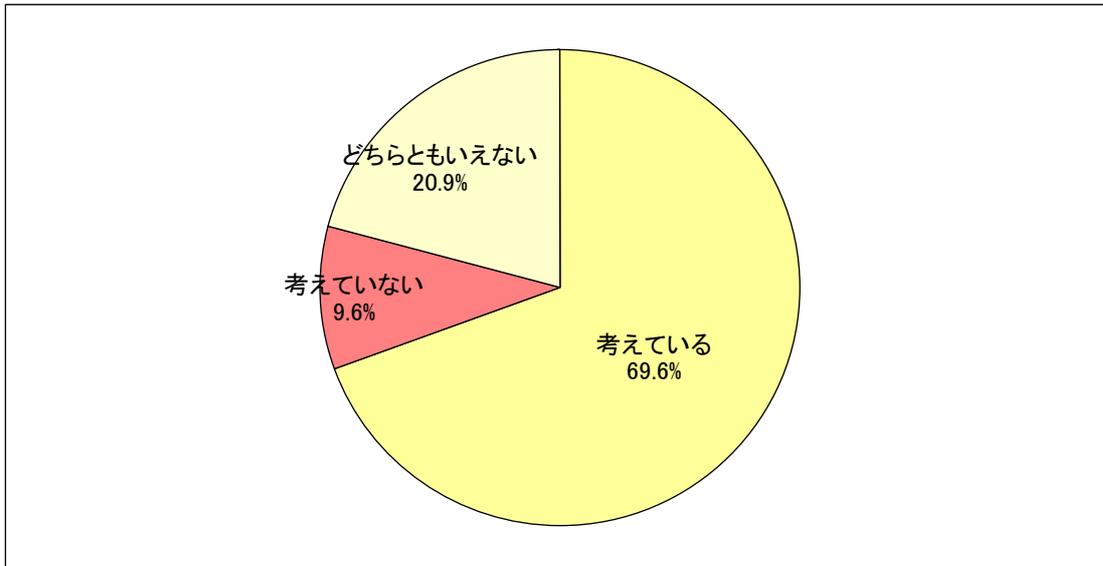
| 聴取項目 | 主な意見 |
|--------------------------|--|
| 市町の現状等についての考え方 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 担い手や後継者不足の問題が大きい。学生が県外大学に進学して、県内に帰らない状況のなか産業政策は重要である。 ・ 定住化人口が減少しているなか、生産年齢人口減少に対し危機感を持っている。 ・ 産業が持続的に成長していくための取組みについては、行政主導ではなかなか難しい。 ・ 特徴的な農産物があっても、商品開発・販売のノウハウがない。 ・ イベント観光が大部分であり、産業政策については、なかなか出来ていない面もある。 ・ 事業者が公的機関の補助事業などを利用する際、事務手続きが煩雑との声が多い。そもそも国、県、市などが行っている産業振興関係で利用できる事業があることさえ知らないことが多い。 |
| 市町の今後の産業振興についての考え方 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域企業の維持・発展を産業振興の中心と位置付け支援するとともに、地域資源の積極的な活用に取り組む。 ・ 食品産業の飛躍、発展を目指して、他産地に打ち勝つ先進的な技術開発、資源の有効活用に取り組む。 ・ 農作物の高品質・高付加価値化に努めるとともに、ブランドの確立、食育を含めた地産地消の促進に取り組む。自然・歴史・文化などの地域資源や農水産物・特産品等を活用し、まちづくりと一体となった観光の振興に取り組む。 ・ 国内外を問わず観光客の誘致に努め、主要産業である観光業の活性化を行うことで地域全体の産業の活性化に取り組む。 ・ 海外展開を含めた地場産業の振興を図っていく。 ・ 文化芸術やスポーツなどの持つ創造性を生かした産業振興に取り組む。 |
| 「香川県産業成長戦略」の基本的考え方に関する意見 | <p>【成長産業の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 希少糖を使った特産物の開発、販売もしたいが、県には希少糖のさらなる活用を図ってほしい。地域資源を活用した食品分野にも取り組みたい。 ・ 今後は、健康、福祉、環境関連の産業支援の取り組みができるかどうか課題である。 ・ 特産品単品では限界があるので、農商工連携により農産物の加工品を地元の特産品になるよう創作して全国に売り出すとともに、地元での地産地消を目指す。 |

| | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 高品質な農産物づくりや地域資源を生かした食品関連分野に力を入れたいが、規模では勝てないので、販売戦略を展開したい。 ・ 観光関連分野は、交流人口を増加させるので積極的に取り組んでいきたい。国際観光の取組みも必要である。 <p>【競争力強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オンリーワン・ナンバーワン企業の振興を図りたい。 <p>【海外展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海外展開は、技術流失や雇用の喪失などの危険性もはらんでおり、それよりもむしろ、国内生産の充実の方が大事なのではないか。 <p>【人材育成・確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の都会への流出が進むなかで、「人材の育成・確保」が一番大事と考える。 ・ 産業の振興には、各地域で産業を担う人材の育成と確保が重要であり、将来の産業構造の変化に対応した地域産業の担い手を育成・確保するため、産業界・教育・行政が連携して取り組む必要がある。 ・ 本当は地元で就職したい人が多いが、情報が少なく、都市圏や高松市などに流失しているのが現状である。県中心部で開催している就職相談会を、それ以外でも開催して欲しい。 <p>【産業基盤の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業誘致については、優遇制度などを活用して積極的に取り組んでいきたい。 ・ 市町合併により、余った庁舎・学校や広大な土地がある。これらを強みとしてとらえ、活用することで産業の活性化を図っていきたい。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産業振興策については、県との連携を進めていきたい。そのための情報共有化を図ってきたい。 ・ 企業もしくは事業者が利用しやすい制度の創設や制度利用促進のための広報を行う必要がある。 ・ 頑張っている企業を応援したい。こうした企業に対する支援は必要である。 |
|--|---|

企業

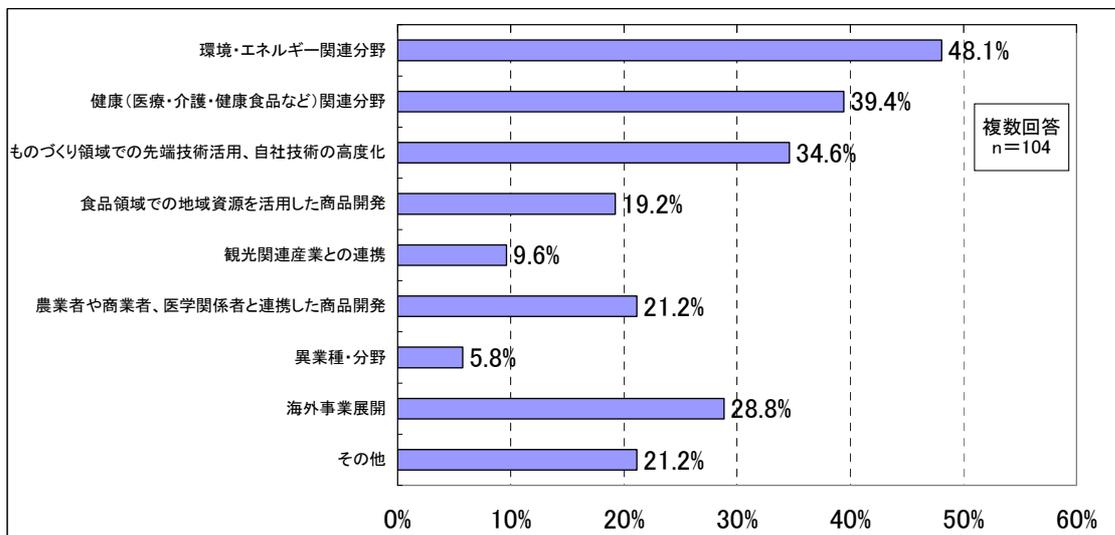
① 将来(10年程度)を見越しての方向性や領域

将来を見越しての方向性や領域について、約69.6%の企業が「考えている」、以下、「どちらともいえない」(20.9%)、「考えていない」(9.6%)と続く。



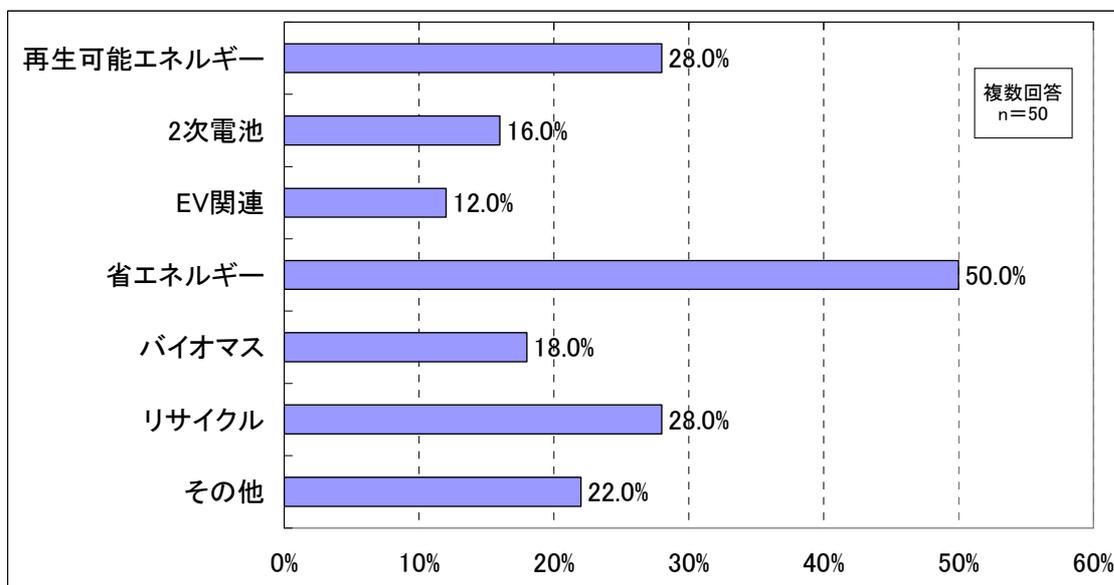
② 今後希望する具体的な方向性や領域

①で「考えている」と「どちらともいえない」と回答した企業が、今後希望する具体的な方向性や領域について、「環境・エネルギー分野」を考える企業が48.1%と約半数であり、以下「健康関連分野」39.4%、「ものづくり領域での先端技術活用、自社技術の高度化」34.6%と続く。



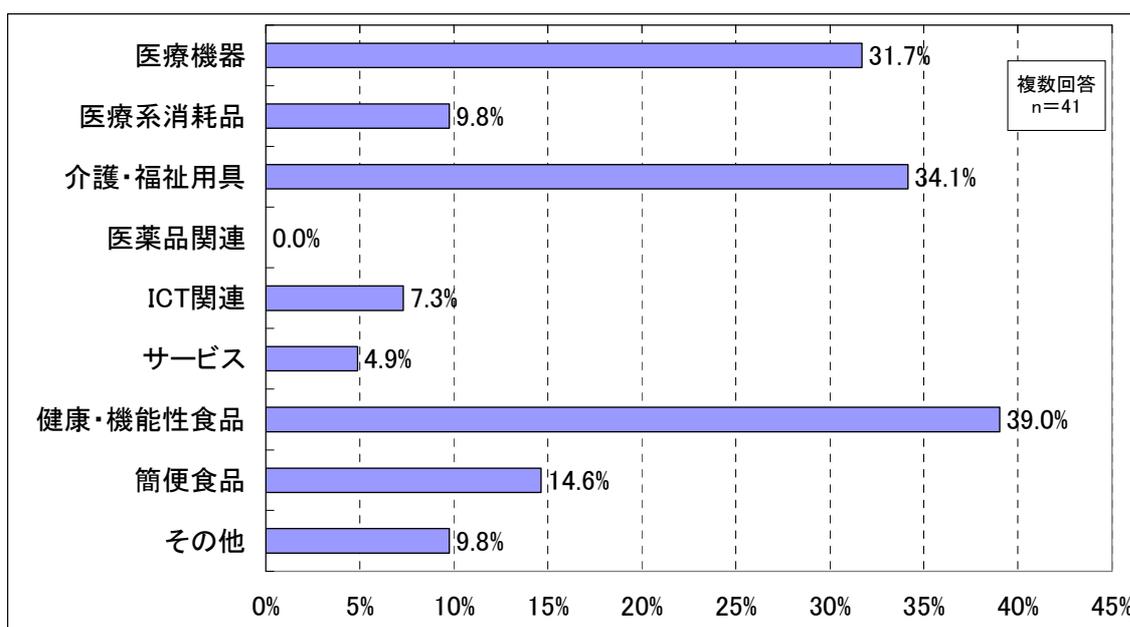
③ 「環境・エネルギー関連分野」の中で進出したい分野

②で「環境・エネルギー関連分野」と回答した企業のうち、進出したい関連分野として「省エネルギー」をあげた企業が50.0%と高く、以下、「再生可能エネルギー」「リサイクル」が28.0%となった。



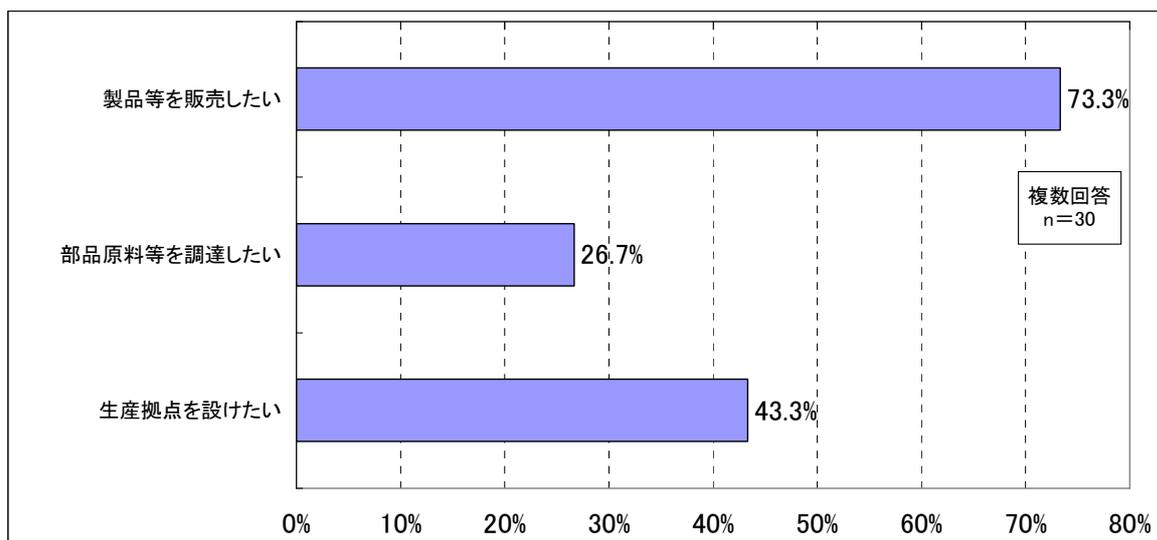
④ 「健康(医療・介護・健康食品など)関連分野」の中で進出したい分野

②で「健康関連分野」と回答した企業のうち、進出したい関連分野として「健康・機能的食品」をあげた企業は39.0%、以下、「介護・福祉用具」34.1%、「医療機器」31.7%と続く。



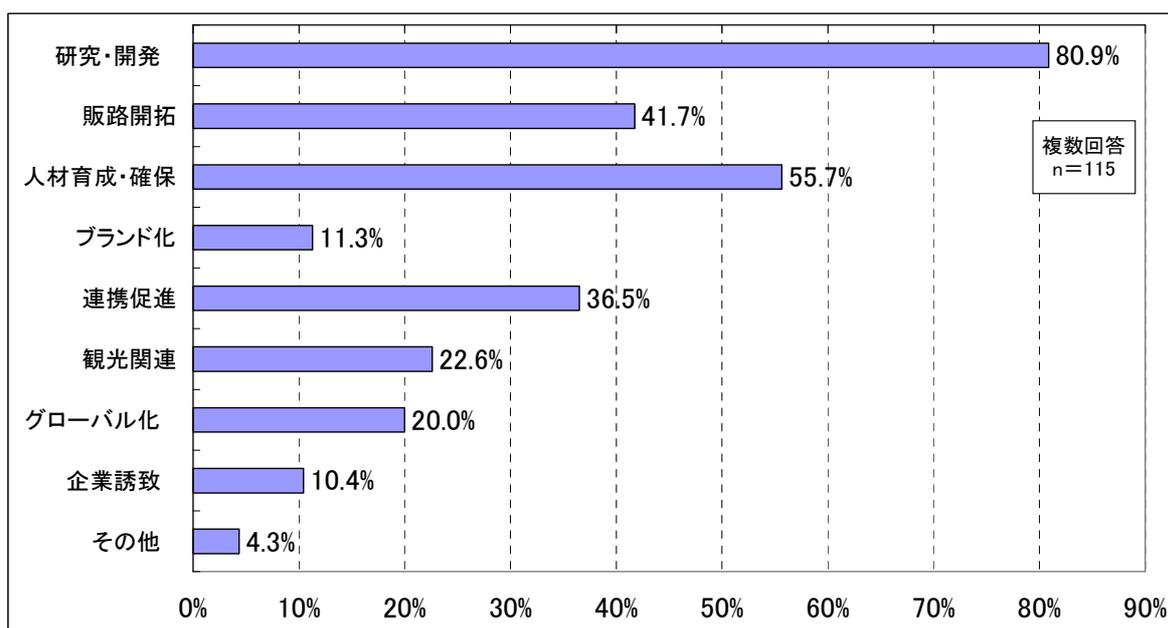
⑤ 「海外事業展開」について

②で「海外事業展開」と回答した企業のうち、「製品を販売したい」が73.3%であり、以下、「生産拠点を設けたい」43.3%、「部品原料等を調達したい」26.7%であった。



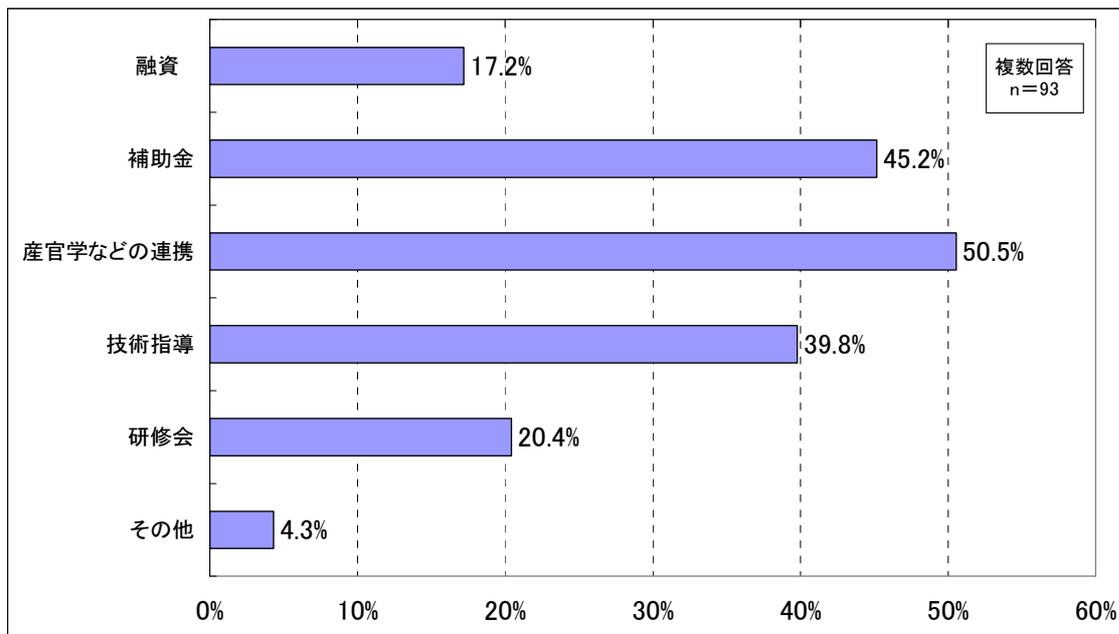
⑥ 県が充実すべき支援策

香川の産業成長のために必要な県の支援策として、「研究・開発」が必要と答えた企業が80.9%と最も高く、以下、「人材育成・確保」55.7%、「販路開拓」41.7%、「連携促進」36.5%、「観光関連」22.6%と続く。



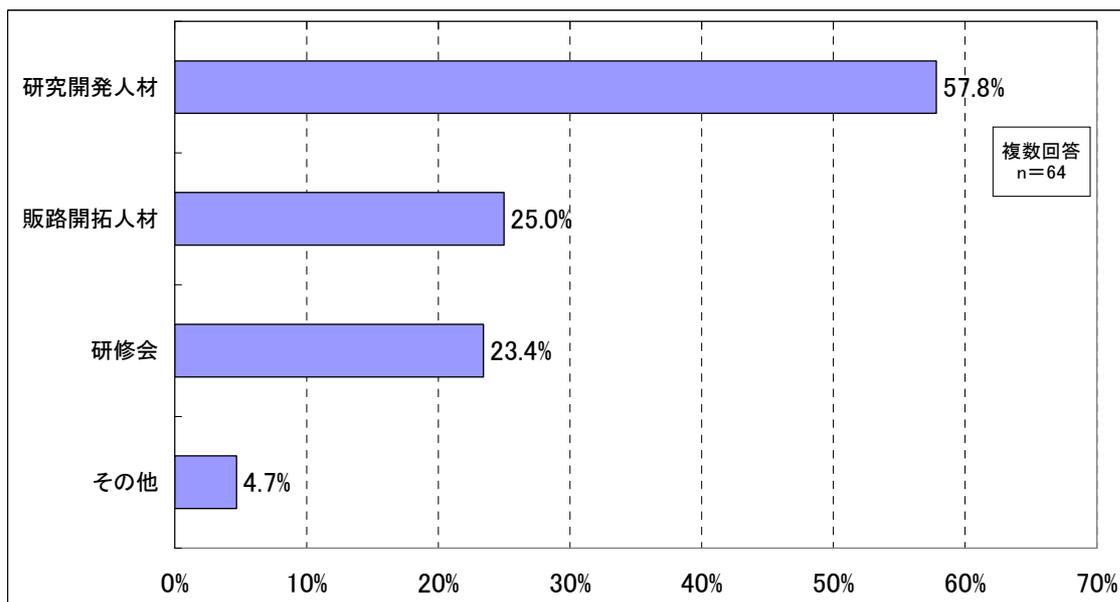
⑦ 「研究・開発」に対する支援内容

⑥で「研究・開発」と回答した企業が必要とした支援内容は、「産官学などの連携」が50.5%と半数を占め、以下、「補助金」45.2%、「技術指導」39.8%と続く。



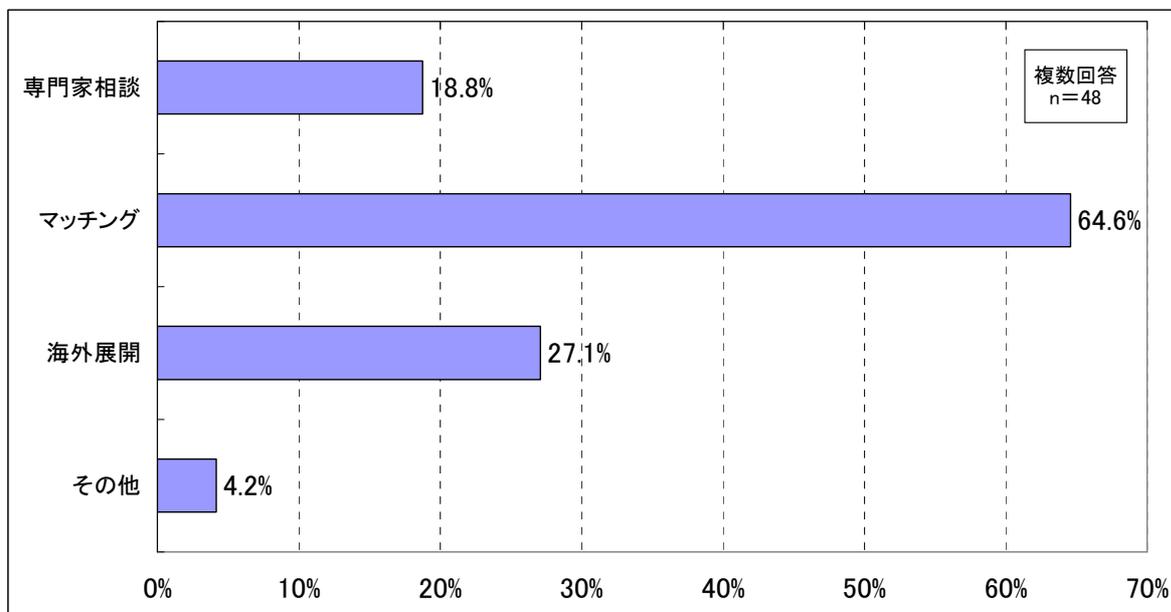
⑧ 「人材育成・確保」に対する支援内容

⑥で「人材育成・確保」と回答した企業が必要とした支援内容は、「研究開発人材」と答えた企業が57.8%と最も多かった。以下「販路開拓人材」25.0%、「研修会」23.4%と続く。



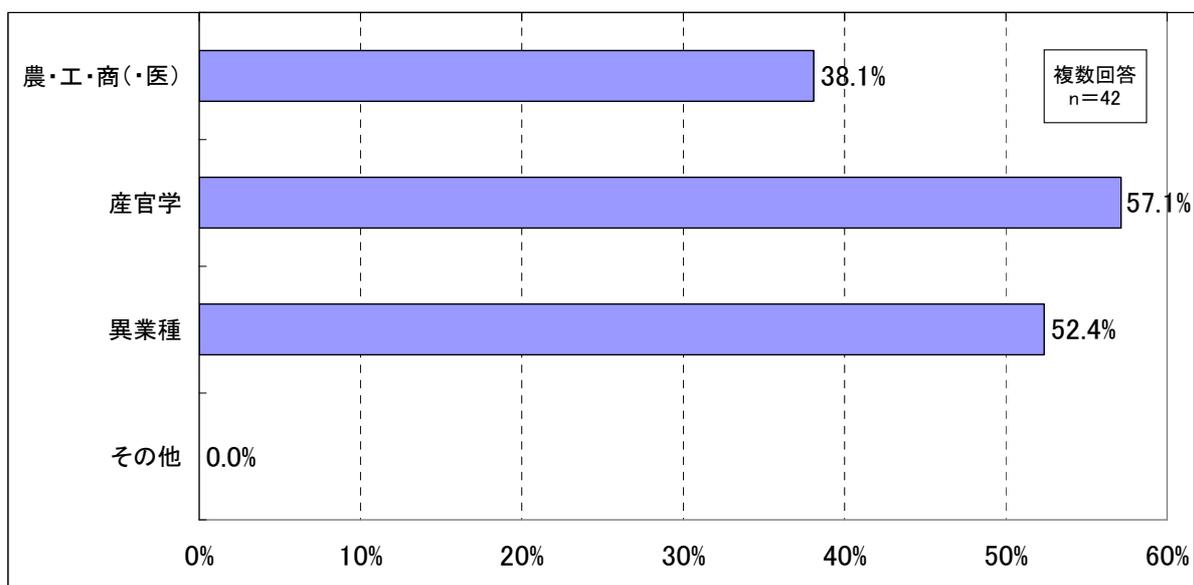
⑨ 「販路開拓」に対する支援内容

⑥で「販路開拓」と回答した企業が必要とした支援内容は、「マッチング」と答えた企業が64.6%と最も多く、以下、「海外展開」27.1%、「専門家相談」18.8%と続く。



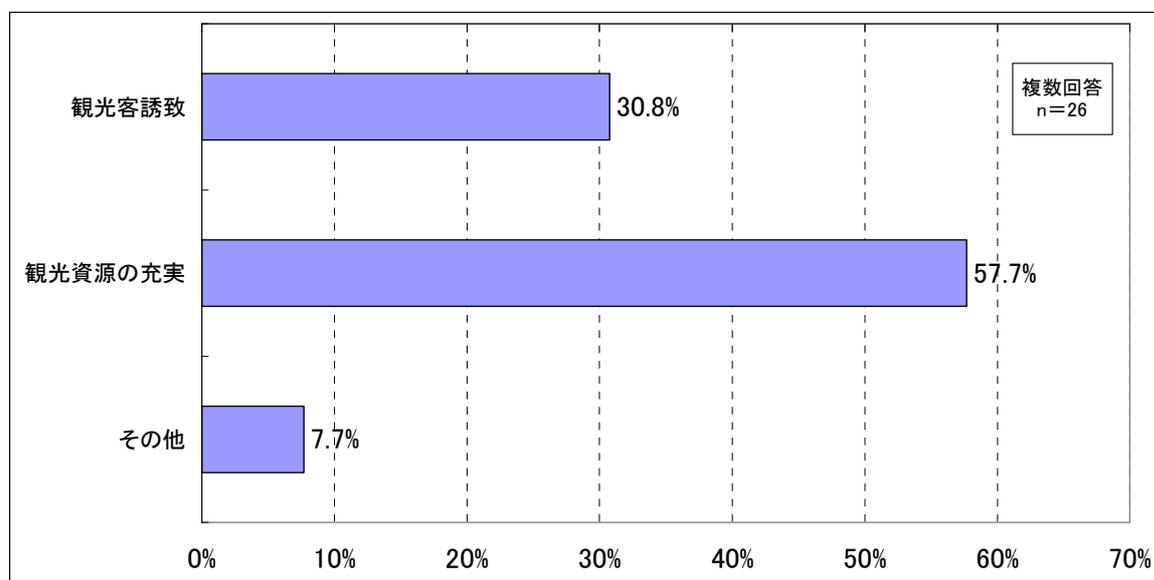
⑩ 「連携促進」に対する支援内容

⑥で「連携促進」と回答した企業が必要とした支援内容は、「産官学」が57.1%と最も多く、以下「異業種」52.4%、「農・工・商(医)」38.1%と続く。



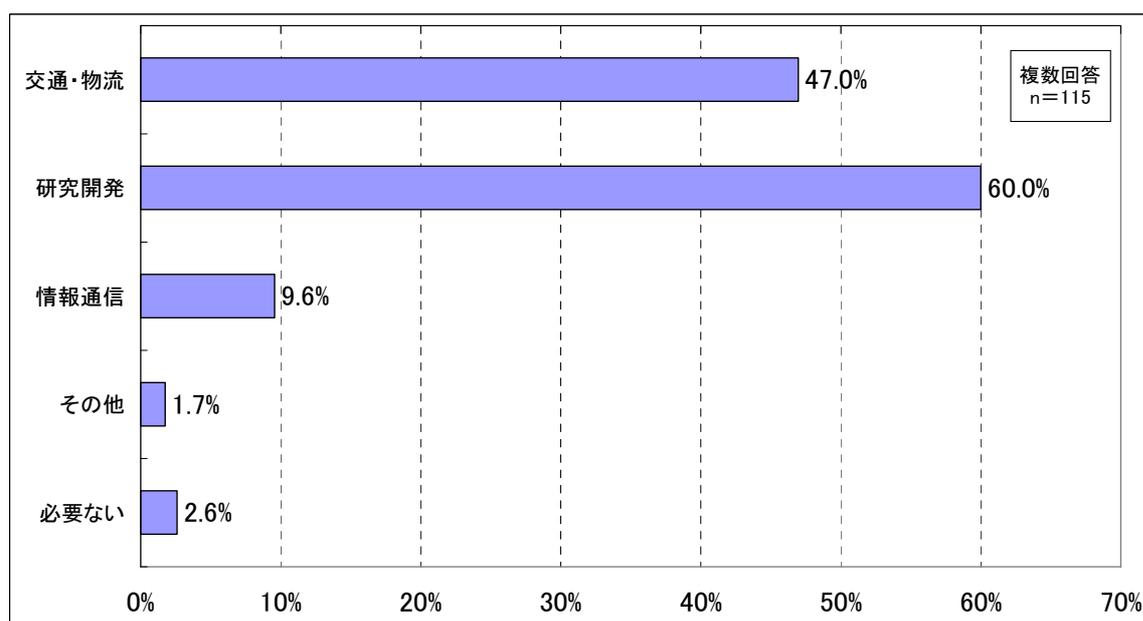
⑪ 「観光関連」に対する支援内容

⑥で「観光関連」と回答した企業が必要とした支援内容は、「観光資源の充実」が57.7%、「観光客誘致」が30.8%であった。



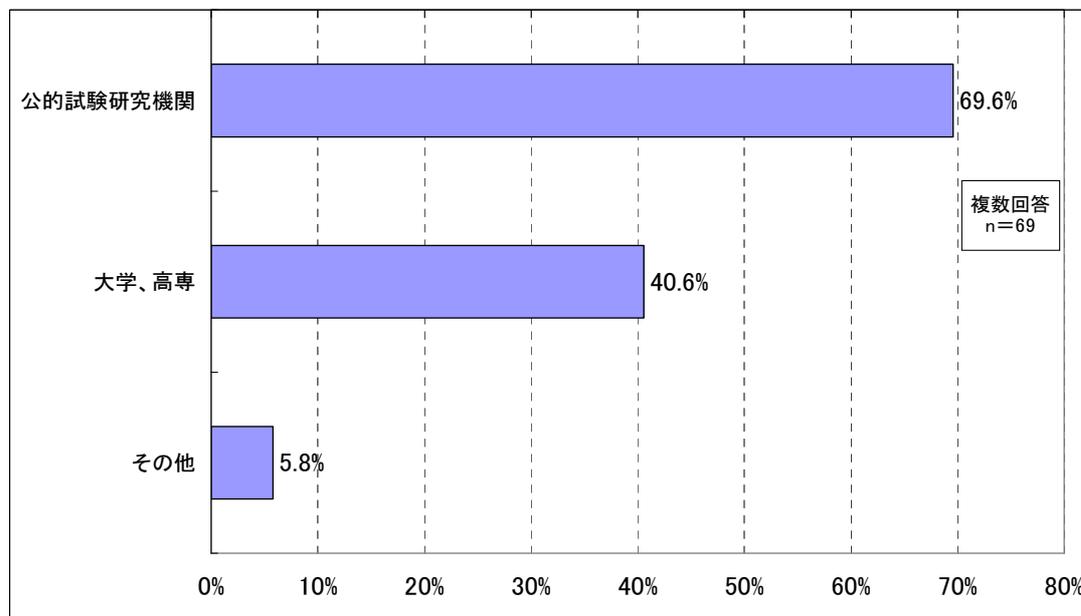
⑫ 必要とされるインフラ整備

今後のインフラの整備やその充実で必要とされたのは、「研究開発」と答えた企業が60.0%と高く、以下「交通・物流」47.0%、「情報・通信」9.6%と続く。



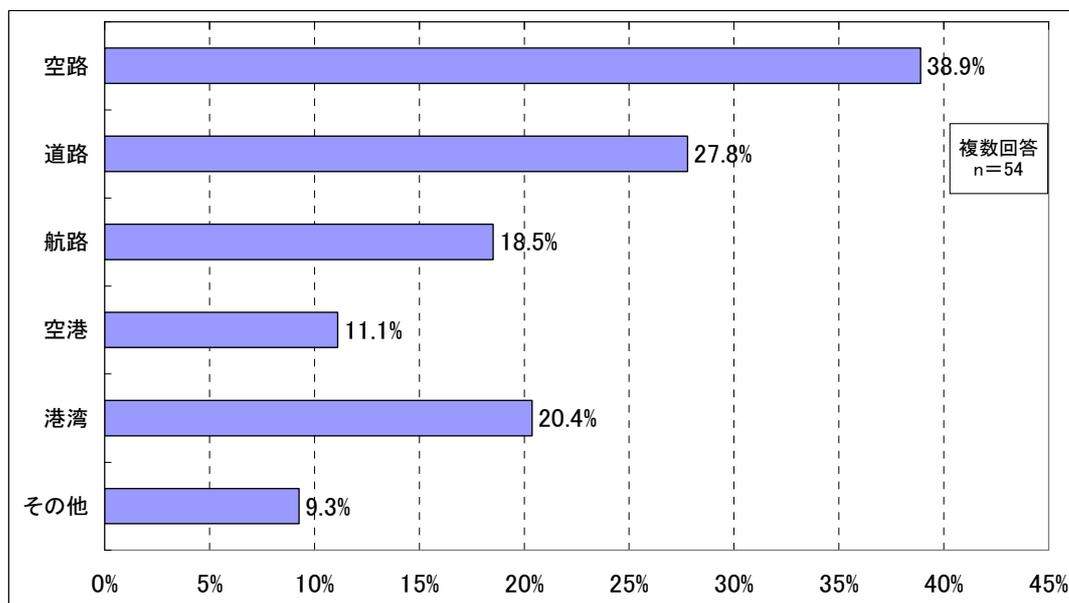
⑬ 「研究開発」の中で必要とされる整備内容

⑫で「研究開発」と回答した企業のうち、その整備や充実が必要なものとして、「公的試験研究機関」が69.6%、「大学、高専」が40.6%であった。



⑭ 「交通・物流」の中で必要とされる整備内容

⑫で「交通・物流」と回答した企業のうち、その整備や充実が必要なものとして、「空路」と答えた企業は38.9%、以下「道路」27.8%、「港湾」20.4%、「航路」18.5%と続く。



⑮ その他

| | 主な意見 |
|------------|---|
| 香川県の強み | <ul style="list-style-type: none"> ・ 穏やかな気候で、自然災害が少ないため、住みやすい環境のもとで、事業計画についても見通しがつきやすい。また、安心して設備投資ができる。 ・ うどん、オリーブ、醤油など地域ブランドは多いと思われ、独自の強みを伝統的に持っており、それらは健康的なイメージがある。 ・ 狭い県土面積の中に、多様な企業が集積しており、協働しやすい条件が整っているため、シナジー効果が得られやすいと思われる。 ・ 他県と比べ人口密度が比較的高いため、低コストでのインフラ整備が可能である。 ・ 穏やかな気候のもと、瀬戸内海での海上輸送は、外洋と比較しても安価である。 |
| 香川県の弱み | <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国的な知名度の低さ、うどんしかないように思われている。香川自体が「うどん頼み」感がある。 ・ 水が不足しているというイメージが先行している。 ・ 大きな市場がなく、都市圏からも遠い。そのため、交通インフラ、物流コストが割高である。 ・ 情報発信力が弱く、また、スピード感がある対応が取れていない。 ・ 個々の会社の都合、発展にばかり目がいき、一体感が乏しい。「業界として、県全体として発展する」という発想が少ない。 ・ 大学、研究所等でのシーズ開発力が不足している。 |
| 充実すべき県の支援策 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営、販売、商品開発等などを手がける人材育成への支援をしてほしい。 ・ 地場中小企業に対する研究・開発の手助けと同時に資金的な援助を期待する。 ・ 海外展開時における支援策を充実してほしい。 ・ 香川県が推進すべきプロジェクトは、何でもいいと思うが、そのプロジェクトを多くの一般県民と協力したり、分かりやすく、興味を持つものとしなければ、今の状態では、一部の人達にしか伝わってこない。 ・ 本県のものづくり企業は、大消費地から遠いところにあり、輸送コスト高による競争に負けないために付加価値の高い商品を作る必要がある。そのためには特許等の知財活用が必要であるため、中小企業の知財支援を強化していただきたい。 ・ 県との連携事業についてはスピード感が足りない。公的研究所等の人員を増やして研究・相談体制の充実をしてほしい。 |

経済団体

| 聴取項目 | 主な意見 |
|--------------------------|---|
| 香川県の強み | <ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな自然災害を受けるリスクが少なく、又、道路の整備状況もよく、更には、人口密度も大都市圏並みの数値であり、居住地、産業地としての優位性がある。 ・ 金属、一般・電気・輸送用・精密機械の「ものづくり基盤技術産業」と冷凍食品・めん類などの「食品産業」は牽引産業。 ・ 希少糖に期待。 ・ 地理的特徴として近畿圏（京阪神）に近いという地理的優位性があり四国の玄関口として流通拠点となっている。 ・ 都市型インフラの整備が進んでおり、ニッチトップの地場産業を中心とした基礎素材型産業が発達している。 |
| 香川県の弱み | <ul style="list-style-type: none"> ・ 成長の核となる産業が少ない。 ・ 日本で一番小さい面積のため、生産、製造規模が狭小である。 ・ ブランドイメージとして「讃岐」＝「香川」になっていない。 ・ うどん以外のブランドイメージが弱い。 ・ 渇水に対する不安がある。 ・ 製造業においても製造・加工の規模が他県に比べ小さく、地域の生産品を使った加工品も少ない。 |
| 充実すべき県の支援策 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究・開発（技術指導、産学官などの連携、研修会の実施など） ・ 人材育成・確保（研修会の実施による人材育成、老舗中小零細事業所の後継人材確保、企（起）業家精神の育成、高齢者・女性雇用の確保など） ・ 連携促進（農商工（医）連携、産学官連携、異業種連携など） |
| 「香川県産業成長戦略」の基本的考え方に関する意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本県の持つ資源や特徴の希少糖、バイオマス、発酵食品等の県特有の分野は盛り込まれている。 ・ 全般的には網羅されていると考えるが、10年先を見据えるには、早急に対処すべき事項もある。実効ある施策を望む。 ・ 企業誘致施策も一つの手立てではあるが、まずは既存の中小企業の活性化をどう図るか、そして新たにベンチャー企業を育む土壌を如何につくるかという点にフォーカスすべきと考える。 ・ 産学官連携にしても四国他県に比べて弱い感じがする。このような強化も一つの解だろう。 ・ 大枠としては良いが、成長戦略に結びつけるためのより具体的な |

| | |
|----------------------|---|
| | <p>施策については、業界等とのディスカッションをしていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の社会ニーズは、生活環境面、健康面にあると思われ、この面での当地域の魅力創出に、特に注力すべきである。 ・ 平成 24 年 7 月に制定した「香川県中小企業振興条例」の理念が経済政策の基礎となるべき。 ・ 県内 9 1 %以上の雇用を担っている中小企業の振興をもって、産業振興の基本と考えるべきである。 |
| <p>県が推進すべき具体的施策等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 複合的な施策により女性雇用・高齢者雇用の拡大を目指す施策の展開。 ・ 企業支援における個別支援の充実（企業別の経営課題解決のためのアドバイザー制度の充実を図る。） ・ 今日の社会的ニーズは、「健康」「高齢化・食の簡素化」「地域産品」であり、これらを念頭においた地域性が活かせる食品産業の育成。 ・ 冷凍食品や発酵食品など製造業者の産業集積の技術や四国の玄関口である地理的優位性をもって、他地域の国産原料を加工する産業の集積地化。 ・ 地域ポテンシャルを理解し、俯瞰的な視点のもとターゲットとなるマーケットを見据え、技術の利活用による社会的な課題解決に取り組む戦略を実施できる人材育成。 ・ 「エコノミックガーデニング」の手法（地元の中小企業を成長させることにより地域経済を活性化させること）が地域経済振興に多くのヒントを与えてくれる。 ・ ビジネスマッチングの機会提供や海外を含め、各種展示会への出展支援を県がもっと積極的にやるべきである。 ・ 企業誘致は県が力を入れないとできない。 |

県民

| 意見募集内容 | 意見の概要 |
|-------------------------------------|---|
| <p>戦略策定に当たって、盛り込むべき内容や考え方、アイデア等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ これまで培ってきた技術力をさらに向上させ、企業体質を強化するほか、新たな視点でこれまで表に出てきていない「きらりと光る芽」を見出し特化させていくなど新たな企業、産業を芽吹かせていく。その際、域外から収入を得ていく視点が重要であるが、あれもこれでもなく優先順位を明確にした施策を行う必要がある。 ・ 産業成長のためには、新しいビジネスを展開できる人材の育成が必要である。そのため、産官学の協力の下、経営と技術に精通した人材の育成を図る必要がある。 ・ 讃岐三畜の生産量を拡大し、国内市場の圧倒的なシェアを確立させ成長産業にしていく。そのため畜産生産、加工業者に対し大幅に補助金を支出するなど、施設の整備、人材育成等を行う必要がある。 ・ 今年のお中元で送られてきた肥満や高血圧が改善する砂糖を使った「ドーナツ」を食べたが、甘くてやわらかくおいしかった。本当に、痩せたり血圧がよくなるなら、こんな画期的な発明はない。もっと知らせて、どんどん売っていけばよいのでは。香川県の発明、公認となれば、消費者も信頼と安心感を持つ。 ・ 尖閣の問題以降、日本中が中国との関係がギクシャクしている。中国一辺倒でなく、中国の次も視野に入れたものにしたらと思う。まだ、あまりどこも手がけてないようなところに、香川県が初めて関係を深めるというのも、将来を考えたらいいのではないのか。例えば、タイ、ミャンマー、インド、なんかは、まだまだこれからなのではないか。 ・ トヨタ自動車との商談会（H24年9月に香川県主催）に参加した。最初はトヨタの要望に沿うとは思ってもなかったが、実際に出展し、多くの企業と名刺交換や製品の説明をすることができた。その後、具体的な話も進んでおり、感謝している。中小企業単独では、つながりの機会もなかなかもてない大企業との接点の機会を今後も続けてほしい。 ・ ラジオのなかで知事が、香川県が肥満に効いたり、高血圧に良くきく砂糖を発明し、売り出したと言っていた。そんな身体に良い砂糖があるのなら是非使ってみたい。この砂糖を使ったドーナツも売っていると聞き、早速買いに行きたいし、本当に痩せる砂糖なら、皆に知ってもらったらいい。香川県では、うどん、うどん |

| | |
|--|---|
| | <p>で売り込んでいるが、次は、この砂糖を売ってはどうか。うどんは、日本止まりと思うが、この砂糖は、もしかしたら、全世界に注目されるかもしれないと思うので、頑張ってもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10年先を目指し、香川県成長戦略なるものをつくっているそうだが、作るだけでは何の意味もない。国でも、総理大臣が代わるごとに今後10年間、10年間と言ってつくっているが、10年も続いた総理大臣はいるのか。知事には、香川県の産業のことを本当に思うなら、今つくっている戦略を仕上げたら、責任を持って10年はずっと続けて、この不安だらけの香川の産業を育ててもらいたい。 ・ 行政が、個々の企業のことには手を出すといろいろな難しいことになる。企業が大きく成長する、育てる、新しいことをするための力は「人」である。その人は、生まれたときから色々と教え、育てていくことが大事であり、行政は、その教育にもっと力を注げばよい。教育の基本である昔の寺子屋のように「読み書き算盤」を徹底する必要がある。県は人材を育てるために、小さい時から教えるということに力を入れるべきである。 ・ 成長のエンジンとなる分野を推進していくとのことだが、それ以外の分野については取組みがなされない感じがする。全ての産業分野を満遍なく支援することではないが、地味ではあっても、今頑張っている企業を支援していくような取組みが大事ではないか。 ・ 工学部の大学院生である。今している研究をいかし、出来れば起業したいと考えているが、起業するには資金は当然必要であると思う。経営をするにあたり、帳簿のつけ方からはじまり人の採用など技術以外の経営の仕方がよくわからず、ノウハウがない。こういう者でも起業できるような支援を考えてほしい。 |
|--|---|